地域運動最前線 20地区協議会 Vol.20

連合大阪の５地域協議会に所属する20地区協議会。「地域に根ざした顔の見える連合大阪運動」を最前線で担う、その活動を紹介する。

大阪市地域協議会
淀川地区協議会

役員構成　12構成組織 18単組 役員数 23人

担当行政区　大阪市
（西淀川区、此花区、淀川区、東淀川区）

主な街宣スポット
阪急「十三駅」「上新庄駅」、JR「西九条駅」

■議長 **山本 敏広**（自治労 大阪交通シティバス労働組合）㊨
■事務局長 **野中 健児**（自治労 大阪市職員労働組合）㊧

行政と地区の課題を共有化 共通認識は「ヨコのつながり」

淀川地区協議会では、連合大阪・大阪市地域協議会の運動方針に基づき、毎月の定例幹事会を通じて加盟単組が統一した考え方のもとで、連携を深めながら地区活動を展開できるように努めています。とりわけ４行政区との区長懇談会では、各区の身近なインフラ問題や昨年発生した大阪北部地震での教訓、またベイエリアを有する淀川地区における防災減災・津波対策の課題などについて意見交換や要望をし、地区における課題共有を図ってきました。

また、地区の仲間との交流の一環として毎年開いているボウリング大会では、昨年度は役員ＯＢ会からも参加いただき、例年以上の盛り上がりとなり、参加者にも好評でした。他にも一泊での各種研修会や街頭行動、天神祭りごみゼロや大阪マラソンなどのボランティア活動にも積極的に取り組んできました。

連合運動ならではの構成組織・単組の「ヨコのつながり」の重要性を共通認識としながら、有意義な運動が展開できるよう努めてまいります。

◀大阪マラソンでのボランティア活動

淀川地区がめざすもの

一致団結でパワーアップ

黒田悦治連合大阪副事務局長が13年の長きに渡り淀川地区協議会の事務局長を務めてこられましたが、一昨年、退任されました。そのため体制が大きく変化しましたが、さらにパワーアップした地区運動が展開できるよう地区役員一致団結し、街頭行動やボランティア活動をはじめ、さまざまな活動に積極的に取り組んでいきます。

淀川地区エリアは、2025大阪・関西万博の開催地である此花区夢洲を有し、また、国土交通省が公表してるメガリージョン構想では、新大阪を中心としたインフラの再整備や開発が行われようとしていることから、今後の大阪のまちづくりにおいて注目度の高い地域でもあります。連合運動を通じて、誰もが住みやすい・働きやすい環境整備が果たされるように、淀川地区協議会としても地域に顔の見える運動を通じて、各級議員や働く仲間とともに活動を展開していきます。